



1 式典に参加する皆さん
 2 会場は大勢の出席者でにぎわった 3 新型コロナウイルス感染症対策で検温 4 受付を行う二十歳の成人式実行委員 5 華やかな振袖に身を包む 6 恩師との再会 7 再会の記念に自撮り 8 カメラに向かってウイंक 9 華やかな振袖姿を披露 10 看板と一緒に記念撮影 11 当日は快晴、二十歳の皆さんの華やかな姿を照らしました 12 後ろ姿も美しく 13 友だちとの1枚 14 二十歳の成人式実行委員でうさぎ年ポーズ



1

令和5年 菊陽町 二十歳の成人式

二十歳の主張——式で発表した主張の一部を紹介しします。

私は小学校3年生から昨年の6月まで約11年間野球をしてきました。二十歳になった昨年、人生で初めての挫折を経験し、野球から離れる決断をしました。将来を考えた時、このまま野球を続けていて良いのか、また周りの環境の違いなどに悩み、苦しい時期を過ごしました。

そんな時に一番支えてくれたのは、多くの友人たちでした。とても頼り甲斐のある大人に成長した友人たちと、昔と変わらない距離感でいられることに、このような節目を共に迎えられることに、非常に嬉しい気持ちでいっぱいです。野球の現場からは離れてしまいましたが、それ以上にたくさんの方の大切なものに気づくことができ、そんな貴重な経験をさせてくれた人生初の挫折にも感謝したいと思います。最後に私の好きな歌の歌詞を皆さんに紹介します。

「もっと楽にいきましょう、笑って泣いて、気の向くままに歩いてゆこう。」これはジャニーズのKing & Princeというグループの「踊るように人生を」という歌の一節です。

我々はこれから先の人生、さきほど私が話した経験の何倍も辛い挫折を何度も味わうことと思います。そんな時こそ、この歌のように肩の力を抜いて、友人たちのもとに寄り道して、時には共に泣いて、時には共に笑って、支え合いながら、共に気の向くままに歩いて行けたら素敵だと思います。

まだまだ未熟な私たちではありませんが、今日を機に人生で更なる飛躍を遂げることをここに誓います。



出席者代表
 古閑 響さん
 菊陽中学校出身

二十歳の抱負と両親へ一言 二十歳の皆さんにお聞きしました。

坂本 龍紀さん



東京で教員を目指して勉強している坂本さん。「将来は地元に戻って、20年間育ててくれた両親や地域に恩返しをしたい」と話しました。

松下 優花さん



高校などでも運動部のマネージャーを経験し、人のお世話をすることにやりがいを感じ、看護師を目指す松下さん。「両親へ恩返しをしていきたい」とほほ笑みました。

坂本 千夏子さん



長崎で一人暮らしをしながら、看護を学ぶ坂本さん。「勉強したことを生かして両親や地域の人の健康を守ることで恩返しをしていきたい」と語りました。

高橋 泉海さん



「20歳を迎え改めて、当たり前なことを当たり前で感謝しています」と話す高橋さん。将来は看護の道へ進みたいと話しました。

佐々木 桃香さん



京都で文化とデータサイエンスを学ぶ佐々木さん。「幼いころ地域の方がよくあいさつで声をかけてくれた。両親や地域の人に恩返ししていきたい」と笑みを浮かべました。

武田 圭さん



弁護士を目指している武田さん。「今回の式典で司会をしたようにさまざまなことを経験したい。人のために縁を紡いでいける人になりたい」と将来を語りました。

※写真撮影時のみマスクを外しています。



菊陽町二十歳の成人式が1月8日、菊陽町図書館ホールで開催され、371人が参加しました。式典で吉本孝寿町長は「困難に立ち向かい、乗り越えて、大きく成長してほしい」とエールを送りました。会場外では、再会できた友人に弾ける笑顔を見せる出席者の姿がありました。